

## 2Y-02 情報教育におけるタッチタイピング演習の実践と課題

平野 允 井山慶信  
 広島国際大学 広島大学

### 1：はじめに

情報教育におけるタッチタイピング（本稿では以下“正しい指使いでキーボードを見ずに入力できる技能”と定義）の演習については「大学教育になじまない」、「実施が望ましい」、「授業上必要なスキル」と幅広い意見があるが、一般に学生の自主練習による自主的技能向上に任せているところが多いと思われる。当校でも開校以来タッチタイピングは学生の自学習得技能としてきたが、打鍵速度にばらつきが多く授業進行上に問題が生じたため、授業時間内にタッチタイピングの演習操作を実施することが望ましいとの視点に立ちその効率的な方法について考察し検証を行った。

### 2：学習カリキュラムとタッチタイピングの位置付け

当校の情報演習ではコンピュータに慣れ親しみ、ワープロ・表計算・データベースソフトなどの機能を理解し、諸問題の解決に活用できる技術習得を目標として週1回90分、通年30回の授業を実施している。なおこの他週1回90分15回の共通基礎講義が並行実施され演習内容を支援している。（表1）

表1：情報処理演習と情報処理概論の内容

演習回数	演習内容	講義回数	講義内容
1-3回	PCの基本操作、ファイルの操作管理	1-2回	情報と情報処理
4-6回	メール・インターネット操作	3-5回	コンピュータの原理と利活用
7-10回	ワープロ演習（文書作成・編集・印刷）	6-8回	情報通信ネットワーク
11-15回	表計算演習（表集計・グラフ・関数）	9回	データベース
16-20回	ワープロ・表計算応用演習（データ連携）	10-11回	システム形態と開発技術
21-25回	データベース演習（D関数ピポット・アクセス）	12回	知的所有権
26-29回	プレゼンテーション演習（企画・表現力）	13-14回	情報システムの展望と課題
30回	総合課題	15回	総合課題

先述した通り当校では平成10年度開校以来タッチタイピングは学生の自学習得としていたが授業進行上問題があることから授業時間15分を使用し学習ソフト（商工会議所キータッチ2000）によるタッチタイピング演習をあるグループ（1学年323人のうち167名）で試行実施しその実施成果を検証することとした。なおタッチタイピングによる目標は日商検定4級の10分間280文字程度を狙うこととし授業時間外練習を学生に要望した。

### 3：検証結果

練習延べ10回終了後に例文を与え10分間の入力文字数でカウントした評価試験結果は表2のとおりである。なお高校時代からOA教室、パソコンクラブ等でタッチタイピング練習を本格的に行い入力文字数が550文字以上のスキルを既に保有する学生のデータはここでは考察の対象外とした。

表2：タッチタイピング演習を実施したグループとしなかったグループの検証データ

タッチタイピング演習	10分間入力文字数平均値	同最大値（文字数）	同最小値（文字数）	280文字以上の分布数	350文字以上の分布数
練習有りのグループ	272.1	526	82	38.8%	20.6%
練習無しのグループ	264.5	545	117	33.8%	16.2%

表から明らかなおり平均値、目標値に3-5%程度の差はあるものの殆ど有意差は認められない。むしろ280文字の目標未達学生が60%以上も占めることにショックを受けた。学科別に見た数値を表3に示す。

表3：タッチタイピング演習の学科別データ

	A学科		B学科		C学科		D学科	
	練習無	練習有	練習無	練習有	練習無	練習有	練習無	練習有
10分間の入力文字平均値	296.8	288.3	268.0	302.5	266.3	282.2	229.3	222.1
最大値	526	526	504	480	545	491	506	427
最小値	122	91	153	144	124	121	117	82
280以上の学生比率	55.0%	48.8%	30.3%	51.3%	33.3%	37.5%	16.7%	20.0%
380以上の学生比率	20.0%	19.5%	15.2%	20.5%	12.8%	17.5%	4.8%	4.4%

理工系に近いB学科のみにやや成果が見られたものの総じて学科別に有意差は認められない。

#### 4：学生のアンケート結果

- ①アンケート分析では自分のタッチタイピング結果を「満足」と答えた学生は21.4%であったがその10分間平均入力文字数は約332で、目標の280文字を下回った学生が27.3%含まれていた。また自分のタッチタイピング結果を「不満足」と答えた学生は77.9%で、その10分間平均入力文字数は約256、目標の280文字を上回った学生は30.0%いた。
- ②授業外でタッチタイピング練習を実施したかどうかについては約6%が「相当やった」と答えその入力平均値は280であったのに反し「殆どしなかった」と答えた学生は約23%でその入力文字平均値は273とあまり差がなかった。前者で280文字の目標を達成していた比率は33.3%で後者でのそれは41.7%であった。「少しやった」と答えた残りの大部分(71%)の入力平均値は271で目標達成率は38.5%であった。
- ③役に立った学習項目についてはワード34.1%を筆頭にメール22.4%、インターネット22.9%、エクセル10.6%、タッチタイピング10%で、タッチタイピングに付いてはエクセルと並んで評価は低い。これは必要性を感じていないか、関心が少ないことが原因と思われる。
- ④自宅にPCを保有する学生比率は48.1%でその目標達成率46%、一方非保有者の達成率は33%であった。また保有者の約19%は「結構授業関連で使用する」としており、「少し使用する」は57%「殆ど使用しない」は24%でその目標達成率は夫々64.3%、47.6%、27.8%でやはり使用頻度に応じタッチタイピング成績は良い様である。

#### 5：まとめ

タッチタイピング演習の是非は古くて新しい問題であるが今回15分の演習時間を設定してもあまりその有効性が見られない結論となった。しかしPC保有者と非保有者に若干の差が見られ、その使用頻度に応じ効果がやや見られることが判明した。またアンケートから学生はタッチタイピングに興味が無く必要性を自覚していないことも判った。如何に興味を持たせPCに慣れさせるかが重要課題である。正しいタッチタイピングは健康上好ましく、短い時間投資で多くの成果を生み出せる上、就職上も有利であると思われるのでその点を強調するなど有効な動機付けを行い、また関心を示すタッチタイピングソフトの検討などの諸施策で今後再挑戦してみたい。なおタッチタイピングを成績評価の項目とすべきかどうかは今後の課題である。

---

Practices and subjects on effective training of touch-typing to assure the information education

Nobu Hirano (Hiroshima International University)

Yoshinobu Iyama (Hiroshima University)